

実践報告・研究発表の概要

【研究発表・実践報告①】13:15～14:10

【A-1】

自発的思考を働かせ、表現したくなる授業デザイン

—児童生徒を中心にして—

神奈川県教育研究所連盟関連発表

藤沢市立湘南台小学校 教諭 中村朋
藤沢市立天神小学校 教諭 中川和秀
藤沢市立駒寄小学校 教諭 山下誠
藤沢市立六会中学校 教諭 片山あかね
藤沢市立大清水中学校 教諭 藤沼航太

「児童生徒の発信する力を高めたい」という思いからスタートし、音声を中心としながら、児童生徒の「心が動く」体験を通して、「英語が好きな子」を育てるための手立てを研究しました。昨年度3月に発刊した報告書『『自発的思考を働かせ、表現したくなる授業デザイン』～児童生徒を中心にして～』の内容を紹介します。

【B-1】

創造力を育成する造形遊びの授業

—「対象との対話」、「友達と対話」、「自分との対話」の三つの対話を通して—

藤沢市立村岡小学校 教諭 西野夏実

これからの中社会に必要な資質・能力の一つに「創造力」が挙げられています。児童の創造力の発達に大きな意味を持つのが「遊び」です。「遊び」の特性をいかした活動として、小学校図画工作科の「造形遊び」が位置づけられています。本研究では、「対象との対話」・「友達との対話」・「自分との対話」の三つの対話を取り入れた造形遊びを児童が経験することで、児童一人ひとりの「創造力」を育成することを目指しました。

【C-1】

総合学科の特色を活かした、参加型デジタル・シチズンシップ教育の研究

神奈川県立藤沢総合高等学校 総括教諭 榎本康二

令和4～6年度に教育課程研究開発校(シチズンシップ教育)の指定を受けて、取り組んだ、デジタル時代におけるシチズンシップ教育の在り方に関する研究実践報告になります。



【D-1】

学びを現場に活かす力へ：研修転移の視点から
—教員の情報活用能力向上の実践を通して考える—

神奈川県立座間支援学校 総括教諭 高瀬 潤

主体的・対話的で深い学びは、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を通じた授業改善により実現されることが示され、この学びにはICTの活用が不可欠となりました。それに伴い、ICTや情報・教育データの利活用は、教員の基本的な資質とされました。一方、一人一台端末の活用は神奈川県立の特別支援学校においては令和4年度時点では未達成であり、また、文部科学省の「学校における教育の情報化の実態等に関する調査」によると、座間支援学校においては、「授業にICTを活用して指導する能力」が全国平均よりも大幅に下回っていました。以上のこと踏まえ、教師の「授業にICTを活用して指導する能力」の向上を図るため、5つの方法から成るシステムを考え、効果を検証しました。

【E-1】

気候変動について教えてみよう！
—動画・機材を活用した事例について—

神奈川県気候変動適応センター（神奈川県環境科学センター）主査 米山 翔太

当センターでは、気候変動影響や適応策に関する情報発信の一環として、気候変動問題に対する県民の関心や理解を深めるため、出前授業・講師派遣を実施してきました。

今回は、教育現場での事例を中心に御紹介させていただきます。特に、児童・生徒を対象に作成した動画教材の視聴や、ポータブルの測定機器に触れてもらうことで、授業等への活用について考えていただく契機になれば幸いです。

【F-1】

子どもの願いを実社会の中へ
—共に創るわくわく感が生み出す越境教育—

神奈川県教育研究所連盟関連発表

逗子市立池子小学校 教諭 小林 壽夫

逗子市立池子小学校 校長 内田 源一郎

逗子市立池子小学校 池子小キッズサポーター 代表 門間 祐哉

子どもの「もっといい学校にしたい」という思いから始まったツリーハウスプロジェクト。子どもも先生も一人できることは限られていますが、プロジェクトの成功にむけて、色々な人を巻き込み、その人たちと共に一つのことを生み出す楽しさを感じられた子どもたちは、先行き不透明な現代社会においても、自ら課題を見つけ、多様な考え方や意見に触れ、自ら決定する力を育んでいます。



【研究発表・実践報告②】14:25～15:20

【A-2】

「やり取りの能力」向上のために
—新出文法を活用した言語活動を通して—

綾瀬市立綾北中学校 総括教諭 高橋 泰満

中学校外国語科の授業における「やり取り」の授業に関しては、「即興性」を意識した言語活動が十分でないことなどの課題が報告されています。これらの課題の解決に向けて、授業の冒頭に行う Small Talk に加え、授業の終盤に「新出文法を活用する即興性のある言語活動」を行うこと、これらの一連の活動を Sandwich Talk と名付け、これまで行った授業の報告をします。

【B-2】

学年目標をめざした教育の改善を始めるためのプログラム開発
—高等学校の1つの学年における取り組み—

神奈川県立海老名高等学校 総括教諭 福住 星一

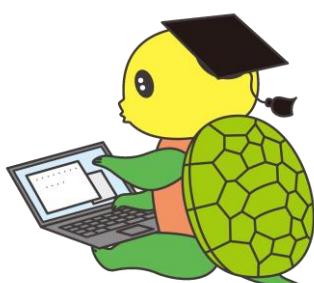
本研究は、高等学校において「生徒が身に付けるべき汎用的な資質・能力を教員間で合意し、それを踏まえた教育活動の改善を実現できるか」をテーマとし、数か月という短期間ににおいてその第一歩を踏むためのプログラムを開発したものです。いわば、限られた期間の中でも、高等学校の教員たちが、自分たちの実感をもとに教育の方向性を定め、それに基づいて教育活動を変容させることができるか、その可能性を探ろうとしたものです。

【C-2】

共生社会形成を目指した協働のデザイン
—地域と学校とのつながりから—

神奈川県立茅ヶ崎支援学校 総括教諭 下村 耕一郎

本校の教育目標「一人ひとりが輝く教育」のもと、共生社会推進チームでは、「地域において自分らしく生きるために」を合言葉に共生社会実現を目指した活動に取り組んでいます。令和5、6年度にはチームに共生社会推進担当を配置し、地域資源の開拓、地域と連携した教育活動の企画、地域への啓発活動等の実践をしてきました。地域のニーズをもとに、行政、民間団体、一般市民とともに進めてきた2年間の実践と今後の展望について発表します。



【D-2】

授業が変わる！ミライを変える！神奈川発・授業改善プロジェクト

神奈川県立総合教育センター 指導主事 中野 敦生

「主体的・対話的で深い学び」が実現する授業とは、どのような授業なのかーー。

指導主事として、授業力に関する研修の質を高めるために学んでいたとき、この問い合わせが頭に浮かびました。その後、教育委員会と学校との関係性を分析する中で見えてきたのは、教育委員会と学校の間に、授業改善を支える理論と実践の往還が生まれにくい構造的な“壁”があるという現実です。だからこそ、指導主事がその“壁”を越えて、理論と実践の往還を生むための“教師の伴走者”になることが必要だと考えました。こうした背景のもと「教師の伴走者」として授業改善の好循環を生み出す」をテーマに調査研究プロジェクトを立ち上げ、現在も活動を続けています。その具体的な経過と今後の展望についてご報告します。

【E-2】

教育実践臨床研究

子どもたちの世界を知る

—教師と学びのデザイン—

神奈川県教育研究所連盟関連発表

藤沢市立高砂小学校 教諭 大和 大地
藤沢市立御所見中学校 教諭 森 和広
藤沢市立白浜養護学校 教諭 鎌田 優子
藤沢市立俣野小学校 教諭 河合 舞子
藤沢市立大鋸小学校 教諭 瀧澤 達彦
藤沢市立羽鳥中学校 教諭 小林 龍柱

「見えることからの授業の再構築」を研究テーマに、日々の授業を大切に授業実践研究に取り組んでいます。その取組は1987年に始まり、今年36周年を迎えます。「教育実践臨床研究 子どもたちの世界を知る—教師の学びと成長—」を発刊しました。「見えることからの授業の再構築」「新しい教育実践臨床研究の方法」「教育実践臨床研究の経験がもたらすもの」「研修講座をつくる」の4つの視点で記しています。ここでは、その内容を紹介し、授業研究の意味について、広く意見交流を行いたいと思います。

【F-2】

児童の育ちに寄り添った児童指導と支援教育のより一層の充実を目指して

—職員間の連携を大事にした深い組織作りの実践を通して—

神奈川県教育研究所連盟関連発表

伊勢原市立高部屋小学校 教諭 山口 亜希子

児童の発達と学校生活を支える「児童指導部」と「支援教育部」の二つの部会を一体化し、「子どもサポート部」を立ち上げました。本校の風土に根付いている職員間の連携の良さを生かし、より細やかでより深い協働体制に発展させ、「子どもサポート部」を学校組織の根幹に据え、持続可能な支援体制にし、児童や家庭の多様化するニーズに対し組織的に迅速に対応できるよう、「子どもサポート部」の在り方を研究しました。



【研究発表・実践報告③】15:35～16:30

【A-3】

外国語チーム「指導と評価の一体化」×「評価事例集」の冒険
—学びと成長の探求—

神奈川県立総合教育センター 指導主事 大石 智子

令和5、6年度に、総合教育センター外国語チームが作成した2冊の評価事例集「高等学校英語教員のための評価事例集 聞くこと 読むこと編」「中学校・高等学校英語教員のための評価事例集 話すこと 書くこと編」を紹介し、学習評価の充実に資することを目的に、「指導と評価の一体化」、「4技能テスト」、「ペーパーテスト」、「パフォーマンステスト」、「ループリック」をキーワードに協議を進めます。是非ご参加ください。

【B-3】

確かに豊かな書く力を育む国語の授業

神奈川県教育研究所連盟関連発表

藤沢市立善行小学校 教諭 石原 勇弥
藤沢市立鵠沼小学校 教諭 湖本 竜祐
藤沢市立藤ヶ岡中学校 教諭 佐藤 駿将

「確かに豊かな書く力を育む国語の授業」をテーマに、3年間研究してきました。学習の手立てとして、①指導内容の焦点化、②相手意識を持つ、③「書くことスタンダード」の活用、④ICTを活用した推敲・共有、⑤協働的学びの推進、等々を実践してきました。これらの成果と課題を研究報告書としてまとめましたので、その内容について報告します。

【C-3】

主体的に学習に取り組む態度について

神奈川県立上溝高等学校 教諭 岩瀬 憲治

本校では、令和4年度からの3年間を通して、PDCAサイクルに基づいた組織的かつ体系的な指導と評価の一体化の推進について、特に主体的に学習に取り組む態度を主題として研究を行いました。学習評価について、教員間で様々な解釈があることや、妥当性や公平性の担保が難しい等の課題を分析しながら、全体研修や公開研究授業等を通して、学校全体で組織的に取り組みました。本校における主体的に学習に取り組む生徒像やそれにつながる学習評価について協議を重ね、生徒の自己調整する力の向上を目指した結果、対話的・協働的な授業を増やすことができ、生徒が生き生きと学習している場面が多く見受けられるようになりました。



【D-3】

全国学力・学習状況調査データの利活用に関する研究

— 認知過程分析を主としたワークショップから、授業改善に迫る教師に焦点をあてて —

神奈川県教育研究所連盟関連発表

横須賀市立鴨居小学校 総括教諭 本間 諒介

令和5年度全国学力・学習状況調査(以下、全国学調)の学校質問紙調査において、全国学調の結果を学校全体で教育活動の改善に活用しているかについて問う設問に、横須賀市の公立小学校は肯定的な回答は9割を超えるものの「よく行った」との回答は17%でした。本市では、全国学調の結果を分析し、学校全体で教育活動を改善するために活用していくことが課題として挙げられました。

そこで、本研究では、学校現場の教育指導の充実に活用できる全国学調の分析ワークショップのモデル案を提案することを目的とし、分析ワークショップの実施、授業改善に取り組む教師の参与観察及び授業改善事例の収集、授業改善事例共有会の実施といった一連の取組を、研究協力校において実施することとした。

その結果、分析ワークショップにおいて、解答類型の分析から児童の「認知過程」の実態をつかむことで授業の具体的方策を見いだし、授業改善に生かす教師の姿が確認されました。また、授業改善に取り組む教師の姿から、授業改善サイクルを確立するための示唆を得ることができました。

【E-3】

どこまで、どうやって子どもに委ねる？資質・能力を育成、発揮する理科授業

— 個別最適？探究？自己選択・自己決定？令和型？いろいろ出します —

横浜市立都田西小学校 教諭 水野 安伸

理科で大切にされている「問題解決」は、児童にどのくらい身に付いているのだろうか。一人ひとりの児童が問題解決を進めることで、どのくらい身に付いているかが見えてきた。本当に主体的になる授業を目指した実践。第6学年「燃焼の仕組み」「植物の養分と水の通り道」「人の体のつくりと働き」を中心に実践を紹介します。

【F-3】

「みんなが苦しい不登校」を変えていく

— 子どもも保護者も先生も幸せなカタチ —

認定NPO法人 鎌倉あそび基地 理事長 水澤 麻美

不登校の子どもに「無理せず休んで」と伝えた。でもその先はどのように対応していったらよいのでしょうか？

私は、フリースクール Largo の代表として日々フリースクールを運営しながら、神奈川県の教育委員会と不登校情報ポータルサイト「キミイロ」、家から出られずにいる不登校の子どもたちを対象としたメタバースの運営、鎌倉市教育委員会と校内フリースペース運営の伴奏支援で、ご一緒しています。

私たちのこれまでの試行錯誤の実践をお伝えします。子どもも保護者もそれから先生も幸せになるかたちを、みなさんと意見交換しながら探っていきましょう。

